



生ごみ堆肥化体験学習会(4つの保育園)

任意団体 次世代のためにがんばろう会

# 八代地域における 循環型社会へ向けた ごみ減量・生ごみ堆肥化推進活動

一般助成

3年目

実践

リユース食器の  
貸出団体

22団体

ごみ減量学習会開催・  
生ごみ処理箱  
利用者学習会

47回

活動の全体目標に  
対する達成度

90%

## 課題

焼却炉の老朽化で窮地に立つ八代市で、市民と行政・事業所・教育現場が一体となった資源利用抑制・資源分別・再利用(生活ごみ・生ごみ減量化)・不法投棄などの改善。

## 目標

市役所に環境出前授業・生ごみ堆肥化箱の受付窓口となって頂き、当会と共同で市民のごみ減量に対する啓発活動を充実させ、ごみを資源として循環させ、資源循環型構想へ向かう。

## 活動内容

八代市環境課が窓口となり、市民への生ごみ処理箱「もったいなか箱」の紹介や出前授業の派遣などを動めることになり、生ごみの減量と、生ごみ堆肥化から食育活動に広がった。また、公立・私立保育園での置き型式「菌ちゃん箱」の実用に向け移行していき、公立保育園、介護施設などでも、大量のごみを廃棄処分している現状から、有効かつ資源として食育への価値・効果は高まり、一般の市民にも啓発の参考になる活動に繋がった。



資源分別体験授業  
(年間47回)実施

## 達成できなかったこと

生ごみ処理箱「もったいなか箱」の材料費が高く、企業や学校などと検討したが、製材加工には技術力も必要であり、特定の方が作業するので、低コストでは実施できなかった。

## 今後の展望

県が行う「フードバレー構想」の取組みに、生ごみ堆肥の安心安全の地産地消の産物有効活用にも繋げていく。

## 成果と工夫した ポイント



### 成果

市民のごみ減量の活動意識が高まり、生ごみ処理箱の利用者つながりでごみ減量と、生ごみ堆肥化の活動が広がり、ゴミの量を市民1人あたり1日39.8gに減らすことができた。

### 工夫

箱利用者の各戸メンテナンスを毎月2回行い、箱利用者からの紹介が増え、八代地域・行政にも認知された。